

AEによる軸受の評価

AEによる軸受の異常検出

日本フィジカルアコースティクス株式会社
西本重人

ホームページの整理を行っています。

大変申し訳ございませんが、下記を御覧下さい。

文献作成者のホームページに移動します。

株式会社SETLa

ホームページ <https://setlabo.com>

お探しの内容 <https://setlabo.com/maint/>

上記には、他の診断例が多数紹介されています。

1. はく離進行時のAE挙動

下記に軸受NU206の転走面がはく離するまでのAE挙動例を示す。ただし、試験時間短縮のために、振動値の上昇が認められるまでは高荷重条件(0.3C)で試験し、その後、荷重を実機条件(0.1C)に下げて試験を実施している。試験完了に至るまでのAE振幅と振動加速度の変化を図1に示す。振動加速度に変化が認められる以前にAEの振幅が増加し、AE法の早期検出の有効性を確認できる。

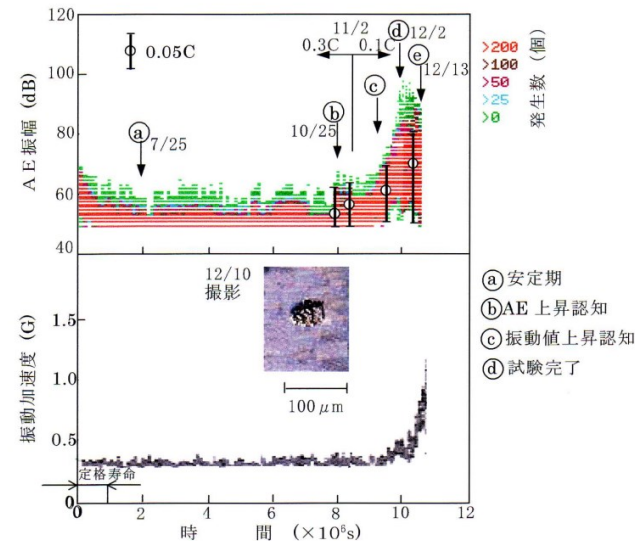


図1 亀裂進行に伴うAE振幅の変化